

2020年6月15日

# 最近の長野県経済の動向 (月例調査)

2020年3、4月の経済データを基に、長野県内の景況を把握したものです。

## 概 要

- |  |  |
|--|--|
| 1. 全国景気                                | 新型コロナウイルス感染症の影響により、急速な悪化が続いており、極めて厳しい状況にある |
| 2. 長野県内景気                              | 新型コロナウイルス感染症の影響により、急激な減速が続いている             |
| 3. 3月の生産動向                             | 生産は減少している                                  |
| 4. 4月の個人消費                             | 乗用車新車販売は7カ月連続で前年を下回る                       |
| 5. 4月の公共投資                             | 公共工事保証請負額は4カ月連続で前年を上回る                     |
| 6. 4月の住宅投資                             | 新設住宅着工戸数は3カ月連続で前年を下回る                      |
| 7. 4月の雇用情勢                             | 有効求人倍率は4カ月連続で前月を下回る                        |
| 8. 今後は、新型コロナウイルスの感染症の影響で厳しい状況が続くと見込まれる |  |

照会先

一般財団法人 長野経済研究所 調査部

担当 桑井、中村(亮)

電話 026-224-0501

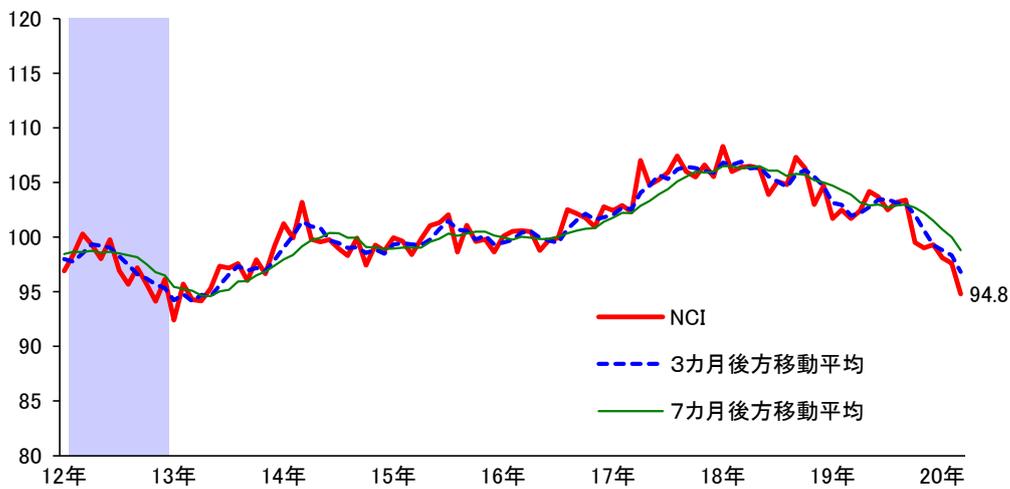


## 景気動向指数

- 3月のNCI(一致指数)は、94.8と前月と比較し△2.8ポイントとなった。3カ月後方移動平均は同△1.5ポイントと8カ月連続で低下し、7カ月後方移動平均は同△1.2ポイントと、6カ月連続で低下した。NCI(一致指数)は悪化を示している。
- NDI(一致指数)は30.0%となり、3カ月ぶりに景気判断の分かれ目となる50.0%を下回った。

(2015年=100)

NCI(一致指数)の推移

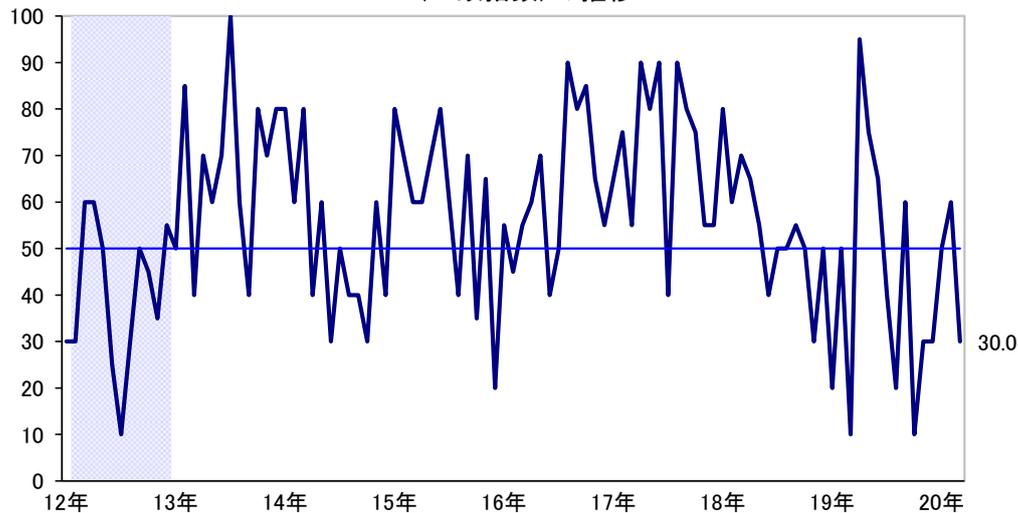


(資料)当研究所「長野県景気動向指数」

注1.NCIは長野県の景気変動の大きさやテンポ(量感)を示す

注2.シャド一部分は長野県の景気後退期を示す

NDI(一致指数)の推移



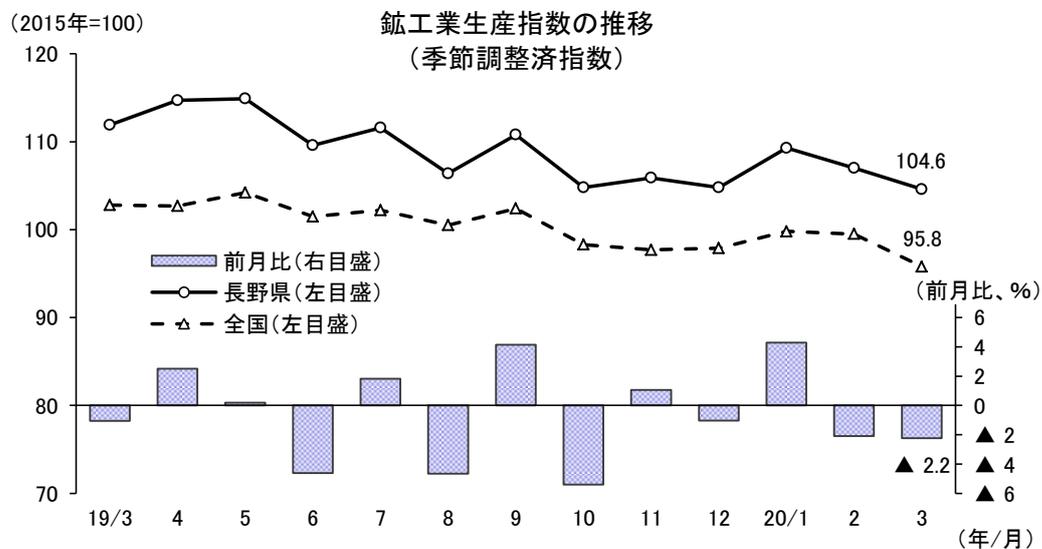
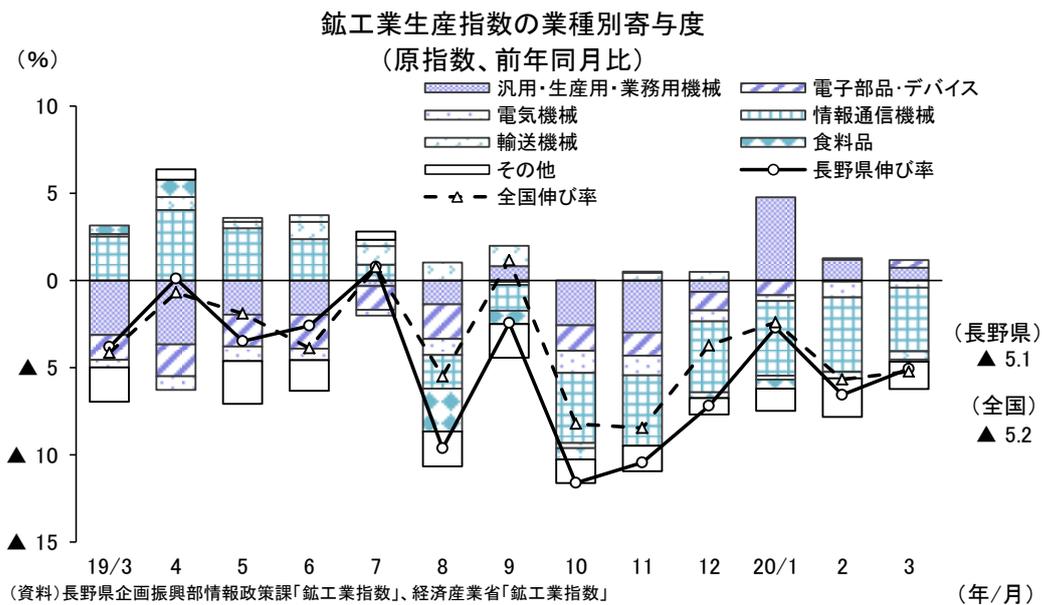
(資料)当研究所「長野県景気動向指数」

注1.NDIは長野県の景気の方角、波及度合いを示す

注2.シャド一部分は長野県の景気後退期を示す

## 生産は減少している

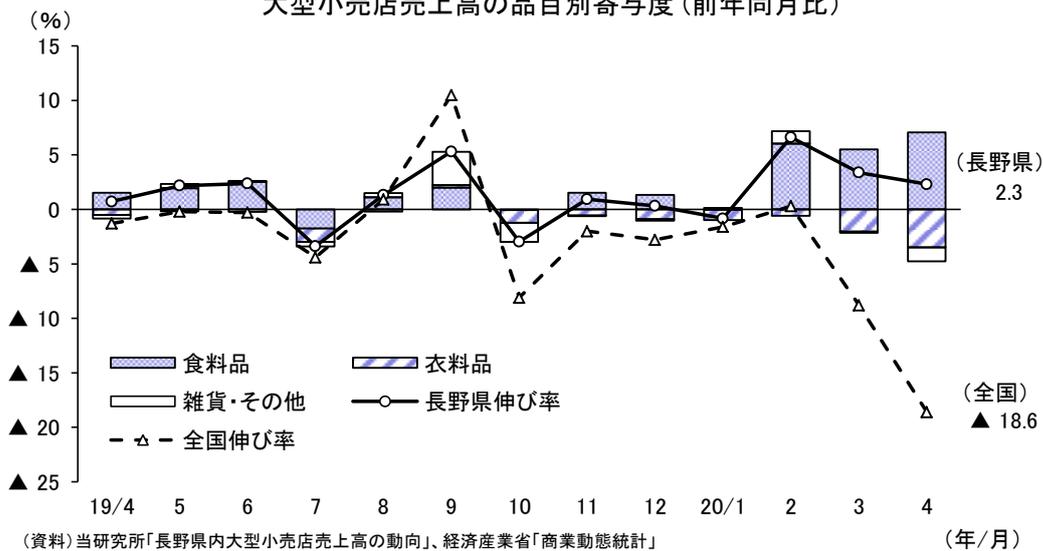
- ・3月の鉱工業生産指数は、原指数が前年同月比△5.1%、季節調整済指数は前月比△2.2%となった。
- ・原指数は8カ月連続で前年を下回り、季節調整済指数も2カ月連続で前月を下回った。新型コロナウイルスの影響により、国内外ともに需要が減少しており、生産は減少している。
- ・主要業種別にみると、産業用ロボット等の「汎用・生産用・業務用機械」や電子部品等の「電子部品・デバイス」が前年を上回った一方、民生用電子機械等の「情報通信機械」や自動車部品等の「輸送機械」など、多くの業種が前年を下回った。



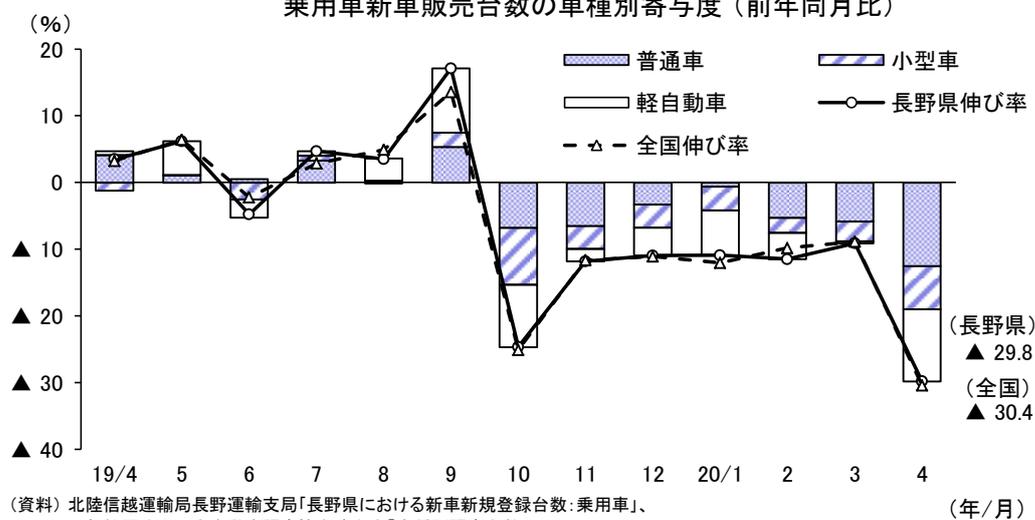
## 乗用車新車販売は7カ月連続で前年を下回る

- ・4月の大型小売店売上高は、前年同月比+2.3%（売場面積調整前）となり、3カ月連続で前年を上回った。食料品は、新型コロナウイルスの影響に伴う家庭内需要の増加に加え、生鮮食品の相場高もあり、同+8.4%となった。衣料品は、外出自粛による客数の大幅減少や営業自粛の影響により、売り上げは同△57.6%と大きく落ち込んだ。雑貨・その他は、化粧品などが低調で同△12.7%だった。
- ・4月の乗用車新車販売は、前年同月比△29.8%と7カ月連続で前年を下回った。新型コロナウイルスの影響による外出自粛や部品供給難による納車遅れなどにより、普通車が同△40.4%、軽自動車が同△26.8%、小型車が同△22.4%といずれも7カ月連続で前年を下回った。

大型小売店売上高の品目別寄与度（前年同月比）



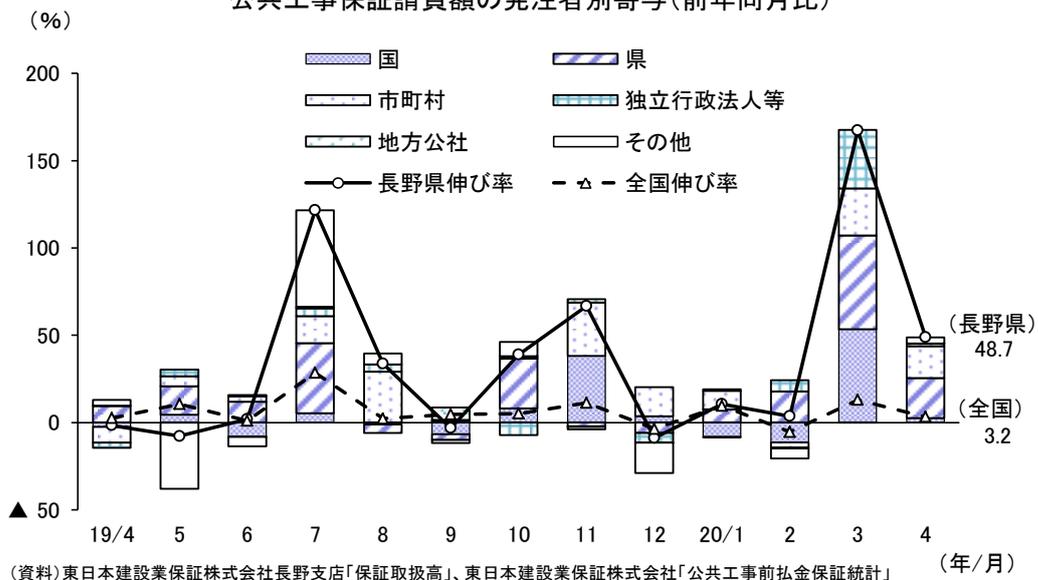
乗用車新車販売台数の車種別寄与度（前年同月比）



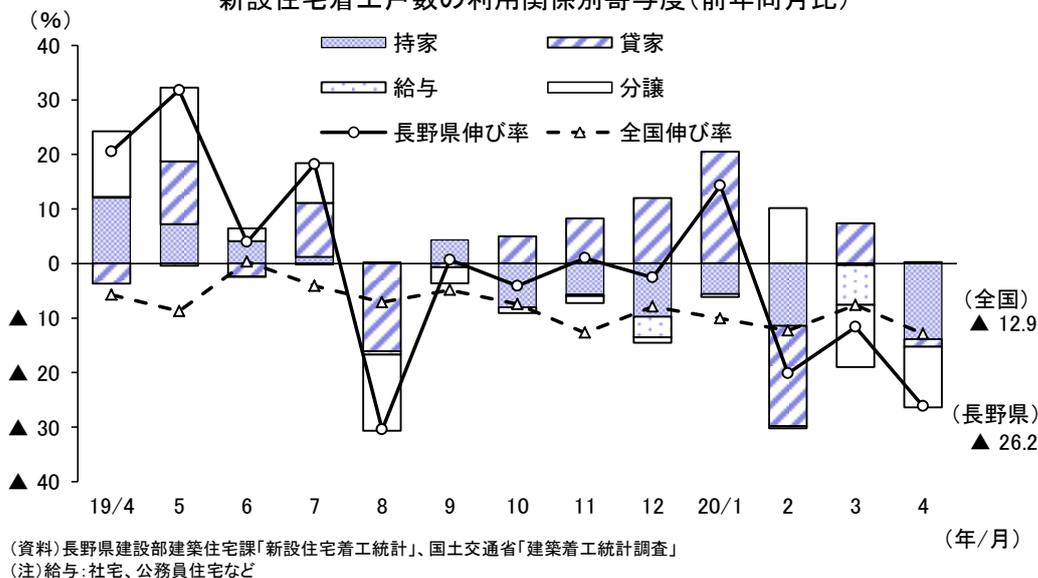
## 公共工事保証請負額は4カ月連続で前年を上回る

- ・4月の公共工事保証請負額は、19年10月の台風19号被害からの復興工事が継続して発注されていることから、前年同月比+48.7%の379億2,900万円となった。発注者別にみると、国が同+16.9%、県が同+72.1%、市町村が同+52.3%、独立行政法人等が同+11.2%、その他が同+75.2%と全ての発注者で増加し、全体では4カ月連続で前年を上回った。
- ・4月の新設住宅着工戸数は962戸で、前年同月比△26.2%と3カ月連続で前年を下回った。利用関係別にみると、給与(同+150.0%)が増加したものの、持家(同△25.2%)、貸家(同△6.2%)、分譲(同△49.7%)は減少した。

公共工事保証請負額の発注者別寄与(前年同月比)



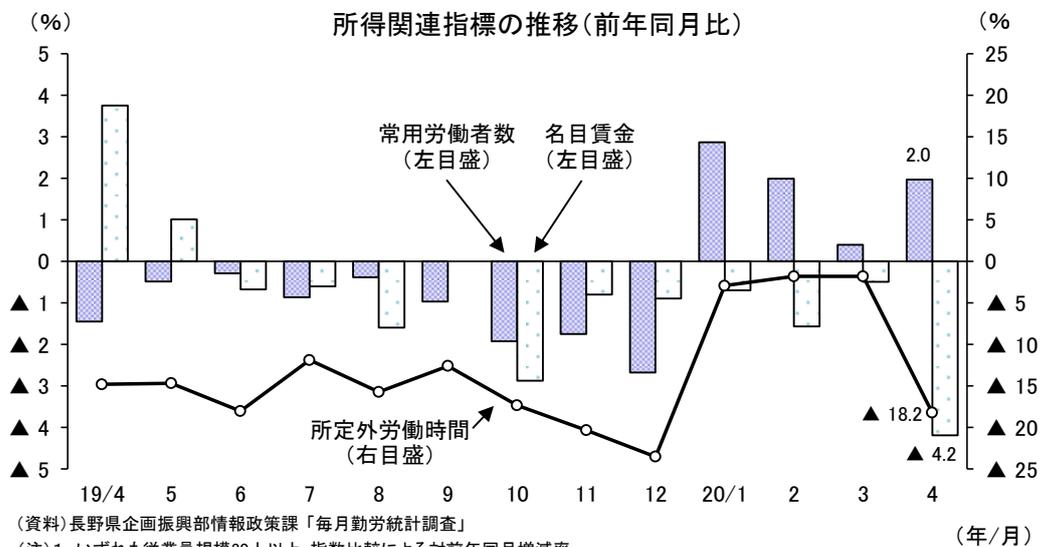
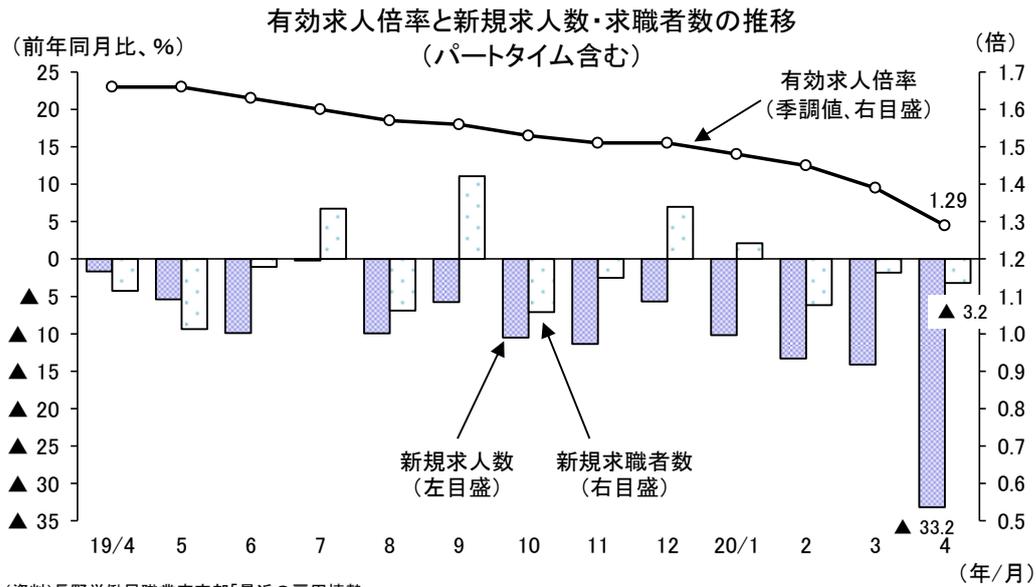
新設住宅着工戸数の利用関係別寄与度(前年同月比)



# 雇用

## 有効求人倍率は4カ月連続で前月を下回る

- ・4月の有効求人倍率は前月比△0.10ポイントの1.29倍となり、4カ月連続で前月を下回った。
- ・新規求人数(全数)は前年同月比△33.2%となり、14カ月連続で前年を下回った。このうち常用は同△26.6%、パートは同△37.0%となった。産業別では、教育・学習支援業(同+8.8%)が前年を上回っただけで、製造業(同△36.1%)、卸売業・小売業(同△20.5%)、医療・福祉(同△16.5%)などは前年を下回った。
- ・新規求職者数(全数)は前年同月比△3.2%となり、3カ月連続で前年を下回った。
- ・常用労働者数は前年同月比+2.0%と4カ月連続で前年を上回った。一方、所定外労働時間は同△18.2%と16カ月連続で前年を下回り、名目賃金も同△4.2%と7カ月連続で前年を下回った。



# 県内地域別・近隣都県別有効求人倍率

## 有効求人倍率が3カ月ぶりに全国を下回る

- ・4月の地域別有効求人倍率(全数)は、北信が前年同月比△0.39ポイントの1.24倍、東信が同△0.23ポイントの1.26倍、中信が同△0.37ポイントの1.13倍、南信が同△0.34ポイントの1.13倍となった。8カ月連続で全ての地域で前年同月を下回った。
- ・職業安定所別有効求人倍率(全数)は、大町が0.82倍、飯山が0.87倍といずれも1.0倍を下回った。
- ・長野県の有効求人倍率は3カ月ぶりに全国を下回り、全国順位は前月から4つ下げ23位だった。

長野県職業安定所別有効求人倍率(実数値)(20年4月)

地域	北 信(1.24) (前年同月比▲0.39)				東 信(1.26) (前年同月比▲0.23)		中 信(1.13) (前年同月比▲0.37)			南 信(1.13) (前年同月比▲0.34)		
	長野	篠ノ井	飯山	須坂	上田	佐久	松本	木曾福島	大町	飯田	伊那	諏訪
全 数	1.44	1.15	0.87	1.04	1.11	1.42	1.16	1.38	0.82	1.07	1.08	1.22
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.50	▲ 0.25	▲ 0.41	▲ 0.26	▲ 0.33	▲ 0.12	▲ 0.37	▲ 0.68	▲ 0.28	▲ 0.22	▲ 0.46	▲ 0.33
うち常用	1.36	1.12	0.82	0.96	1.00	1.36	1.04	1.26	0.85	0.99	1.02	1.19
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.29	▲ 0.21	▲ 0.46	▲ 0.23	▲ 0.21	▲ 0.11	▲ 0.30	▲ 0.67	▲ 0.28	▲ 0.21	▲ 0.38	▲ 0.34

(資料)長野労働局職業安定部「最近の雇用情勢」  
(注)実数値とは、新規学卒を除きパートタイムを含む季節調整前の原数値

